



# 道もなき道ふみわけて

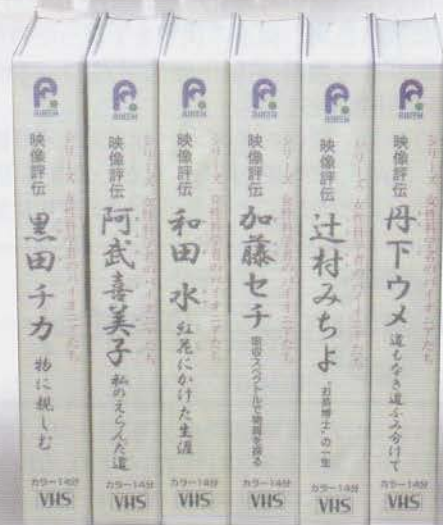
—女性科学者の1000年—



## 今、甦る女性科学者のパイオニアたち

『女子に学問はいらぬ』とされていた明治大正の頃、  
頭脳と勇気を兼ね備えた少数の女性が科学を志した。  
女性科学者のパイオニアたちは、道なき道をどのように  
に踏み分けたのか…

「14分シリーズ」6本に加え、「45分総集編」が  
ビデオとDVDで登場！



## 作品の内容

### ■シリーズ女性科学者のパイオニアたち■

#### 映像評伝

#### ●「丹下ウメ 道なき道ふみ分けて」(14分)

女子の科学教育が存在していなかった明治期、丹下ウメは幸運にも成瀬仁蔵(日本女子大創設者)・長井長義(薬学者)に見い出された。それでも女子帝大生第一号として東北大を出たのが44歳、アメリカに留学しビタミンに関する研究で学位を得たのが54歳。帰国後、理化学研究所の鈴木梅太郎(ビタミン発見者)のもとで研究を続け、57歳から70歳までの13年間に23篇の論文を発表した。丹下ウメは生涯をかけて道なき道を踏み分けたのである。

#### ●「辻村みちよ “お茶博士”の一生」(14分)

辻村みちよは大正12年(1923)理化学研究所に入所。ビタミンB1の発見者鈴木梅太郎の指導を受けながら緑茶の成分分析にとりくみ、ビタミンCが豊富に含まれていることを証明。さらに、昔から効果があるとされてきた渋味の解明にとりくみ、困難な結晶化に成功して、ティカテキンとティタンニンの化学構造を決定。女性で最初の農学博士になった。

ねばり強い研究態度と円満な人柄で女性科学者の先駆けになった「お茶博士」の生涯を辿る。

#### ●「加藤セチ 吸収スペクトルで物質を探る」(14分)

加藤セチは女学校3年で生家の没落に遭遇したが、学問による自立をめざし、大正期の札幌で女学校の教師をしながら北大女子学生第1号として農学部の全選科を修了。

大正11年、理研の女性研究者第1号となると吸収スペクトルを化学分析に応用し、「アセチレンの重合」で黒田チカに次ぐ女性で3番目の理博になった。

戦中は「航空燃料の改質」、戦後は「抗生物質の開発」などに業績をあげ、女性としては理研で初の主任研究員になった。

#### ●「和田水 紅花にかけた生涯」(14分)

和田水は理研の有機化学者黒田チカの助手をつとめ、多様な天然色素の構造の決定を手伝ったのち、東京帝大の服部静夫教授(植物生理化学)について植物色素の生合成機構を研究する。

その結果、紅花の色素カーサミンの分離抽出法を発見し、工業化の特許を得る。だが、和田が研究成果がペーパーにとどまることを満足せず実用化に情熱を注い

だのはなぜか、和田は不運に挫折した父と叔父の志を背負いつづけていた――

#### ●「阿武喜美子 私のえらんだ道」(14分)

阿武喜美子は山口県出身で父親はドイツ留学経験のある開業医。環境に恵まれ文武両道の活発な高女時代を過ごす。

東京女高師に次いで東京文理大(現筑波大)を出ると持ち前の勝気さと行動力で東京帝大の藪田貞治郎(農芸化学者)の研究室に潜り込む。藪田の尽力で大学院入学を許可され、女性第1号として卒業。生化学者としては理研と米国留学で「糖の研究」に業績をあげる一方、教育者としても戦後の教育改革や女性科学者の地位向上に貢献した。

#### ●「黒田チカ 物に親しむ」(14分)

黒田チカは旧佐賀藩民権派藩士の三女として出生。父母に理解があり、明治の子女としては珍しく科学を志す。

東京女高師では長井長義(薬学者)の、女子帝大生第1号となった東北帝大では真島利行(有機化学者)の薫陶を受け、英国留学では桜井錠二(学士院長)の紹介でパーキン・ジュニアのもとで研究。帰国後は理研で天然色素を研究し大きな業績を残した。現代科学の基礎を作った大学者たちの期待に応えて女性科学者の先駆けとなったのである。

### ■シリーズ・総集編(視聴時間:45分)■

#### ●「道もなき道ふみわけて 女性科学者の100年」

明治以降の流れを巨視的に俯瞰しながら、女性科学者のパイオニアたちの足跡を辿る。

### 2007年TEPIAM行クビデオコンクール特別賞受賞

◆14分シリーズ各編(VHS)……………18,900円

丹下ウメ・辻村みちよ・加藤セチ  
和田水・阿武喜美子・黒田チカ

◆14分シリーズ6本セット(VHS)…94,500円


◆45分総集編(VHS・DVD)……………31,500円

「道もなき道ふみわけて—女性科学者の100年」

※価格は全てライブラリー価格・税込価格です

企画 独立行政法人 理化学研究所  
制作 山陽映画株式会社  
配給 株式会社映学社

●お問い合わせ、お買い上げは……

 株式会社映学社  
EIGAKUSYA CO.,LTD.

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-15-2池与ビル3F  
TEL:03-3359-9729(代表) FAX:03-3359-4024  
<http://www.eigakusya.co.jp/>